

令和5年度 脇町高等学校 第1回学校運営協議会 協議等概要

(日時) 令和5年5月25日(木) 16時～17時

(参加者) 吉田委員長・竹内委員・前田委員・武田委員・
川上委員(オンライン)・川原委員(オンライン)・
宮本校長・篠山教頭・多田教頭・総務課(大島・松田・茅野・新見・井上奈)

1. 学校長挨拶

学校の教育課題・目標を共有し、地域の力をお借りしたい。

2. 委員自己紹介

3. 学校経営方針・教育課程の編成について

学校運営協議会要綱の説明・確認

実施計画：第1回5月25日(本日)、第2回9月22日、第3回2月下旬

学校経営方針：スクールミッション・教育目標の共有・説明

教育課程について：各入学年度生の教育課程表配布、Bコース、Sコース等の基本情報説明
旧課程(現3年)、新課程(現1、2年)の違い

新しい制服に向けて：

スクールカラー「紺青」設定について

制服にも「紺青」を取り入れる予定。現在3つの案があり、意見募集の上、8月のオープンスクール時に発表予定。

4. 脇町高校の取り組み紹介

進路状況：64%の生徒が国公立大に合格。最近3年間増加中。就職6名

部活動：全国大会・四国大会出場多数

コロナ5類移行後における学校活動において再開したもの：

<対面実施>始業式・対面式・PTA総会・総体壮行会

<研修等>修学旅行(2学年、東京方面)・大学別進路説明会(全学年)・校外学習(1学年)・
校外研修(3学年)

今後同窓会総会、オープンスクール、台湾研修、屋久島研修も実施予定。

活気ある学校運営を行いたい。

5. 協議

ア コロナ禍での進路選択への影響について

感覚的には都会に出にくくなっている。地元志向が強い。徳島にとどまる生徒が多い印象。

昨年に関しては北海道、東北、九州等遠くにも出ているが、コロナ禍との関係は不明。

イ コロナ前後の違いについて

戻したほうがいいものと、戻さないほうがいいものがある。可能なものについては元に戻すが、教員の負担減のため、行事の配信での実施等、バランスを見ながら検討したい。

ウ chatGPT 等生成 A I の利用について(川原委員より)

生成 AI は禁止したところで生徒は使う。そのあたりのリテラシーを生徒に教える必要がある。また、先生方がまず使ってみてほしい。どういう課題がすぐ答えられてしまうか、など把握できる。

エ 台湾研修のねらい・生徒の変容などの効果について

同年代の台湾生徒が英語を使いこなしているのを見て、良い刺激になったようだ。多様性を認めるような態度形成にも効果があるのでは(川上委員より)

オ 修学旅行での研修先について(前田委員より)

修学旅行の民泊受け入れをしている関係で、関東の高校生がよく来県する。地域の課題を発見・共有するため地元の高校生の意見が聞きたい、との意見が多数ある。協力いただきたい。

また、修学旅行で大学視察をする高校も多い。東京方面の大学視察してみてもは。

今年度は久しぶりの東京修学旅行で、東大の学生との交流もできた。今後も大学を増やす等拡大して継続実施していきたい。(本校職員)

カ 聞き書き甲子園 特別賞受賞発表

いわゆる理系分野にとどまらない活躍をしている。

キ ミライ文化祭について

趣旨・場所・内容・これまでの開催状況等、スライド紹介
来場者数受付カウント 193名

ク 校則について

男子と女子で規定に若干差があるように見受けられる。ジェンダーに留意する必要がある。学校側が理由を説明できれば良い。生徒の意見も聞きながら柔軟に対応してほしい。

新制服の表記は「男子」「女子」ではなく「タイプ I、II」等がよいだろう。